

立山敏男教授への献辞

総合管理学部長 中 宮 光 隆

立山敏男教授は、東京大学文学部フランス文学科卒業後、株式会社電通に入社され、以後1996（平成8）年4月に本学に着任されるまでの34年間、マーケティング部門で広告、マーケティング戦略の企画、製品開発・市場調査等を担当された。この豊かな実務に関するご経験を生かし、本学総合管理学部で「マーケティング論」、「広告論」、「消費者行動論」、「地域社会と企業」、「現代社会と企業」等の講義科目と演習をご担当いただき、10年間にわたって総合管理学部の教育・研究の発展に大きく貢献され、偉大な足跡を残された。ここに深謝の意を表する次第である。

講義科目のなかでも「地域社会と企業」は本学が誇るユニークな科目のひとつである。毎回、県内の代表的な企業のトップを講師に招いて、地域の企業の現状や課題を学生に講義してもらいものであり、学生にとっては多様な業界の現状を理解するだけでなく、トップリーダーとしての考え方や生き方をも知ることができる類い希な機会となっている。立山教授は本学着任後このような科目の開設に賛同され、そのコーディネーター役を引き受けてくださった。このような科目は九州内でもあまり例がなかったため、講師の方々からも積極的な協力と評価をいただいた。そこには立山教授の教育者としての真摯な姿勢と、実務界で培われた豊富なご経験に基づく企業トップの方々と大学との巧みな橋渡し役があったことを見落としてはならない。その他、立山教授ご担当のすべての科目にわたって、総合管理学部が掲げる「七つの総合」という学部理念のなかの「理論と実践の総合」「哲学と実学の総合」を実現するという本学部における教育にとって重要な役割を担っていただいた。さらに立山教授は学生に対する指導も熱心で、毎年多数の学生が立山ゼミを希望した。

教育面だけでなく立山教授は学外でもご活躍され、熊本県や地域の発展に多大の貢献をされた。熊本県観光審議会委員長はじめ熊本県フードシステム連携

強化・循環推進協議会座長，新幹線くまもと創り推進協議会副会長，菊池市中心街活性化検討委員会委員長，天草空港活用による地域活性化方策調査委員会委員長，熊本県創造的中核企業育成事業選定委員会委員，フードパル熊本の調査・研究および開発事業推進委員，中小企業大学校人吉校登録研修指導員，公益信託くまもと21ファンド運営委員等，まさに枚挙に暇がない。さらに立山教授は，地域のさまざまな課題に関して本学の設置者である熊本県から依頼を受けて調査・研究を行う「地域貢献研究」も数多く実施された。一例を挙げれば，「県産品のマーケティング戦略」，「通販のあり方に対する一考察」，「アジア太平洋地域との交流推進の方策について」，「ベンチャー企業の創業プロセスと支援施策」，「自治体経営におけるPFI方式の可能性」，「阿蘇地域におけるサイン（屋外広告物）のあり方」，「九州新幹線全線開通を活用した宇城地域型活性化策の研究」，「平小城地域活性化に向けたマーケティング戦略について」，「熊本県産牛肉ブランド販売に向けたマーケティング戦略について」等である。永年実業界で携わってこられたマーケティングや広告関係はもちろん，地域活性化やアジアとの交流など，幅広く取り組まれたことがよくわかる。

もちろんマーケティングに関する専門研究でも業績をあげられているが，2001年には本学部の他の2教員とともに『経済社会のダイナミズム—21世紀のビジネス・アドミニストレーションを考える—』を編集・出版されている。

大学運営においても3年間を通じてご活躍いただいた。2000年から2002年度には大学評議員を務められ，その間，大学改革に関する学内検討委員会の委員長として意見の取りまとめるなど，本学の発展に大きく寄与された。また永年にわたって本学部の就職対策委員として学生の就職のための指導，就職先の開拓，企業との情報交換等に積極的に取り組んでいただいた。1学年300名近くの学生数を有する本学部が，他学部や他大学と比較して勝るとも劣らない就職率を維持しているのも，この就職対策委員会がフルに機能して，立山教授のような実務経験をお持ちの教員が，民間企業におけるご経験やそこでの幅広い人脈を生かした就職指導・対策を講じていただいているからである。

ご活躍頂いた立山敏男教授に，定年とはいえ本学部から去られることは，誠に惜しい気持ちがするが，致し方ない。立山教授には今後もお元気で充実した日々を送られることを切に念願するものである。これまでのご尽力に重ねて衷心よりお礼を申し上げたい。